

平成29年度 学校評価書

I 経営の重点に関わること

学校名: 静岡市立高等学校 (定時制)

1 学校教育目標：責任ある行動力と自主的・協調的な精神の涵養を図り、社会人として望ましい職業観や勤労観を身につけた健全な勤労学生を育成する。		自己評価	学校関係者評価委員会から	
2 重点目標 生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって、未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活(学習、学校行事、就業体験等)を通して、3つの資質・能力(基本的な生活習慣・基礎力、自己肯定感・自己有用感、自主性・主体性)を、生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会等が連携し、皆で支援する。	(1)基本的な生活習慣・基礎力を生徒一人ひとりが自ら育む教育	① 基本的な生活習慣を身に付ける。(あいさつ、身だしなみ、言葉づかい等) 【全職員】 【学校説明】 ・生徒間や教員とのあいさつ・コミュニケーションはできていたと感じる。 ・言葉遣いに関しては、当初、乱暴で幼稚な言動が多い生徒もいたが、粘り強い指導の結果、学年末にはほぼ改善された。身だしなみに関しても、突飛な服装をしてくる生徒は減少した。髪型も、当初は奇抜な色の者もいたが、声掛け・指導の結果、自主的に黒い髪色に変える生徒も出て、全体に落ち着いてきた。 ・謹慎・訓戒など公式の指導件数は計4件(6人)。指導が問題行動への対処的なものにとどまり、普段の声掛けはできていたものの予防措置となったかは心許ない。	B	B ・社会人としての常識であるから、長く指導を。 ・基本的な生活習慣は、全職員が共通認識を持ち、様々な機会をとらえて、繰り返しきめ細かな指導で身につけさせたい。 ・挨拶や日常的な会話ができていることは、評価できるのではないだろうか。また、個々の生徒が道徳に従って社会性がより培われているのではないだろうか。
		② 日常の授業を大切に、基礎的・基本的な学力を身に付ける。 【全職員】 【学校説明】 ・各教科の年間授業時数の確保に努めた。各教科、1単位あたり30時間(4年は28時間)以上を確保した。評価に関しても、個に応じた指導を実践し、生徒の進歩の状況も加味して、4つの観点を踏まえ、総合的に評価している。 ・基礎基本の徹底に全職員が意識を向け、協力態勢で臨めた。	A	A ・良い環境の中での授業は大切。 ・少ない人数の中で、基礎的・基本的な学力を付けるには、課題もあると思うが、一人ひとりに寄り添った指導ができているように思える。 ・教師は基礎・基本を学ばせる過程の中から、その生徒の個性を見つけ、大切に育てることも必要である。 ・基礎基本の学力について職員間の共通理解をすることは大切なことと感じています(協力体制)
	(2)自己肯定感・自己有用感を生徒一人ひとりが自ら育む教育	① 達成感や成就感が得られる機会を意図的に設定する。 【全職員】 【学校説明】 ・生徒会役員が主体的に活動する場面を設けた。具体的には、遠足・ボウリング大会・球技大会・百人一首大会などの運営を生徒会役員中心に行った。 ・生徒が主体となって発行する生徒会新聞を各学期1回以上発行できた。 ・生徒数が少ない中でも、学年の枠を超えて生徒が連携し、意欲的に行事等に取り組める支援ができた。	A	A ・生徒会が活躍することは、大変素晴らしい。 ・生徒が企画して生徒に学年の枠を超えて諸行事を実施できたことは喜ばしい。 ・生徒会の活動は、個々の生徒の社会性や自立性に大きな貢献をしていると感じます。
		② 自他を尊重する心や態度を身に付ける。 【生徒課】 【学校説明】 ・NPO法人キーパーソン21の協力を得て、生徒の自尊感情を高めるアクティビティの運営研修を行った。アクティビティ後に、個々の生徒の様子に関して分析会を実施した。 ・指導主事定期訪問の中で、職員研修として「人間関係づくりプログラム」の活用研修を行い、自尊感情や他者理解を深めるアクティビティのノウハウを学び、その後の生徒指導にいかした。 ・3年生の「総合的な学習の時間」で、アンガーマネジメントを取り上げた。	A	A ・人間的な触れ合いを大事にした日常的な生活指導を継続することにより、実社会へ適切に順応できる生徒を育てて欲しい。 ・生徒の自己肯定感をもとに自己有用感を高めることを重視した教員の共通した指導観を感じます。
	(3)自主性・主体性を生徒一人ひとりが自ら育む教育	① 外部講師の講話等を通して、在り方・生き方教育の充実を図る。 【進路担当】 【学校説明】 ・HR計画やキャリア教育のプログラムに即した形で、外部講師(進路サポート業者)による進路講演会、専門学校(自動車・製菓)による体験学習を実施した。 ・台風による休校で予定していた行事が1つ流れてしまった。 ・川崎市のキャリア教育を専門に扱うNPO法人キーパーソン21の協力のもと、自己肯定感・自己有用感、将来の進路設計力を育むアクティビティを行った。自分の興味関心がどのような分野にあるのか、心理学的な手法で掘り下げた。生徒の進路意識の向上に繋がった。	A	A ・自分がどう生きるかや職業につけたいのか、機会あるごとに指導していきたい。 ・外部講師による「好きなことビンゴ・お仕事マップ」ゲームを通じて自己の教務関心に気づかせることは、将来を考える上に効果的だったと思われる。 ・「今彼らにとって何が大切か」ということについて、職員間で共通理解を持って取り組んでいると感じます。
		② 職業観や勤労観を養い、在学時及び卒業時の就職率を高める。 【進路担当】 【学校説明】 ・在学が常に就業している環境を推奨した。就業意欲は高く、年間を通じて就職率はほぼ100%近い。ただ、中には就業過多で学習や生活に支障が見られる生徒もいた。 ・職場訪問(年1回)するなど、生徒の成長の様子を多面的に捉えながら進路指導支援に反映させた。 ・卒業予定の生徒は、頭の中で情報や希望が錯綜しており具体的な行動に踏み出せずにいる。	A	A ・良いことです。 ・職業を選択するに当たって、自己の能力・適性等を生かし、社会に寄与するといった意欲態度をもつことが望まれる。 ・勤労青年の学ぶ場というより、コミュニケーションの苦手な生徒(内向的だけでなく)を働くことを通じて育てていることに、夜間定時制教育の大切さを感じます。

II 各指導部・領域等に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から
1 教育課程 学習指導	(1)確かな学力の育成 【市共通項目1】	生徒一人一人に寄り添う授業の実践に努める。 【全職員】 【学校説明】 ・学力が低い生徒に対しては、各科目で個別指導を行った。具体的には、定期的な基礎課題の提出と、放課後に30分程度の補講を継続した。生徒も指導に従い、よく努力した。 ・2学期終了時点で、欠点保有率2%程度。欠点保有者への補講等を行った。	A	A ・ありがたいことです。先生ありがとう。 ・個人差があり大変だと思うが、一人ひとりに寄り添った指導ができているように思う。 ・分かる授業が展開され、生徒が仲間と学ぶ楽しさを理解している。 ・生徒一人ひとりに適した指導を行っていると感じています。どちらかと言うと、今までの学校での学習の場面では主役ではなかった生徒ですので、喜びを感じているのでは。
	(2)道徳教育の充実 【市共通項目2】	高校生、社会人としての規範意識や順法精神を身に付ける。 【生徒課】 【学校説明】 ・特に交通ルールの遵守に重点を置いて指導した。 ・大きな交通事故・違反もなく、交通ルールを遵守して登下校できた。 ・薬学講座を開き、覚醒剤や違法ドラッグの恐ろしさと、規範意識を身に着けた。	A	A ・道徳心を持つ人間であってほしい。 ・命を大切にすることを育て、交通ルールは繰り返し様々な方法で認識させていきたい。 ・指導としての謹慎や訓告があったようですが、その後の指導によって、卒業後の貴重な経験にもなると感じます。
	(3)特別活動の充実 【市共通項目3】	学校行事、生徒会活動等へ積極的に参加する。 【生徒課】 【学校説明】 ・生徒会役員が主体的に活動した結果、他の生徒も積極的に行事に参加した。 ・学校行事については延べで数名の欠席はあったものの、概ね良好であった。 ・年間を通じ、行事等における生徒間の交流は十分にできていた。	A	A ・生徒会が活発に動いているのが素晴らしい。 ・学校行事を通して、生徒同士の交流が十分にできたことは好ましい。 ・全日制との行事の交流の中で、自信につながることを期待します。
2 生徒指導	(1)一人一人を大切に指導 【市共通項目4】	個人面接や教育相談機能の充実を図る。 【生徒課】 【学校説明】 ・全日制の教育相談担当と連携を密にした。 ・普段から心身の変調がある生徒に対して、全員で声掛けをしたり、生徒の話を聞いたりする体制を取った。 ・生徒や保護者との複数回の面談を通じ、個に応じた指導に努めた。その結果、それまで連絡が取りにくかった保護者が、学校へ密に連絡をしてくれるようになった。	A	A ・問題を抱えているご家庭も多いと思うが、連携をとり、一緒に考えてやりたい。 ・教師の生徒個々への寄り添う姿勢が伺え、きめ細かな指導で生徒個々の理解が良くできていると思われる。 ・精神的には、生徒にとって、家庭での人間関係を支援することも大切と感じます。

3 進路指導	(1)進路指導の充実	キャリア教育を推進し、職業意識の向上を図る。【進路担当】 【学校説明】 ・キャリア教育の推進については、今年度から指導カリキュラムが動き始めた。LHR等を中心に、推進マニュアルをもとに、各担任・進路担当が、進路講演会や専門学校体験会などを実施しており、例年よりも充実している。 ・卒業生の体験談や様々な職業の魅力を紹介し、職業観や将来に向けた学力・技術が向上できるように指導支援を行った。	A	A ・望ましい職業観に裏付けられた将来の行き方を考えられるように、さらに充実した進路探求学習を工夫されたい。 ・個々の生徒への充実した進路指導がなされていると感じます。
4 安全管理・指導	(1)学校安全システムの構築【市共通項目5】	防災教育や交通安全教育を推進し、生徒自らが安全に行動する力を育成する。 【管理職・生徒課】 【学校説明】 ・外部講師招聘による交通安全教室（年1回）と自転車点検（各学期1回）等を実施した。 ・9/4に避難訓練（夜間経路確認）と防災訓練（体験型）を実施した。千代田消防署と連携し、起震車体験・スモーク体験・水消火器体験を実施した。	A	A ・交通安全は、被害者加害者療法が不幸になることが多いので、徹底して指導して欲しい。 ・実施日時を告知せず、抜き打ちに行う避難訓練の実施等、防災意識の啓発の仕方も検討して欲しい。
5 保健管理・指導	(1)健康教育の充実【市共通項目6】	生徒自ら正しい健康管理ができ、安全で規則正しい生活習慣を身に付ける。 【保健室・保健体育科】 【学校説明】 ・給食の摂食率を毎日管理し、給食の摂食指導を契機とした食育教育を行った。 ・教科「保健体育」では、保健体育科講師と養護教諭がTTを組み、飲酒にまつわる諸問題についての授業や、介護問題の授業、咀嚼と健康に関する授業など、健康・保健に対して多面的なアプローチを行った。 ・「保健だより」を30号以上発行し、学校保健の啓発に勤めた。	A	A ・自分の健康は自分で守る、保健だよりなどを活用して更に意識を高めたい。 ・生徒の身近な内容で、健康を意識させて良い。さらに内容の充実を図り、健康管理の大切さを伝えて欲しい。 ・自分の生活習慣や心身の健康管理は、青年の自立にとっていちばん大切なことのように感じます。学校教育における養護教諭の役割は益々重要になると思います。
6 特別支援教育	(1)学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進【市共通項目7】	特別支援教育の視点を大切に、多様な学習ニーズに応える。 【教務課・特別支援担当】 【学校説明】 ・中学校側及び保護者からの情報提供を基にして、当該生徒に対する指導方針を教職員間で確認し指導支援した。 ・県および市の特別支援教育の研修会に職員を派遣した。 ・ただ、職員の個別の対応に終始し、組織的な特別支援教育の体制はとれなかった。	B	B ・発達の違いをもつ生徒への理解と指導は容易ではないと推察される。 ・特別支援教育は「個別の指導計画」にあるように感じます。各担任が、生徒の得意とするところや困難を感じているところを把握し、共通理解をしていくことが重要と感じます。
7 組織運営	(1)組織・運営の改善【市共通項目8】	生徒の情報と教育課題を速やかに全職員で共有する。【全職員】 【学校説明】 ・少人数の職員室であるため、生徒の心身の不調や対人関係のトラブルなどに関する情報を、日常的に共有ができた。 ・生徒指導案件の対応等においても、全職員で組織的な対応ができた。例えば、職員の一人が生徒指導にあたっている際に、他の職員が、生徒指導を行っている教員の日常的業務をサポートするなど、互いに支え合いの体制ができています。	A	A ・全職員で一人ひとりの生徒を育てていくという体制が何より大切である。 ・生徒との心の交流を深め、生徒のメンタル面でのサポートをさらに充実させて欲しい。
8 研修	(1)研修体制の充実【市共通項目9】	研究授業や授業公開を通して、指導方法の工夫改善に努める。【教務課】 【学校説明】 ・県総合教育センターの指導主事定期訪問を受けて、公民科の研究授業を行った。 ・中部定時制副校長教頭会主催の授業研究会に3人の教員を派遣し、研究授業と合評会を行った。 ・日常的に学校見学を受け入れ、中学生とその保護者に授業を見学していただいている。今年は、22人の中学生とその保護者が授業を参観した。 ・静岡高校の初任者の初任者研修の授業参観を受け入れた。 ・上記の研究授業・授業公開を通じて、主体的に深い学びにつながる授業実践が実現できた。本校の教員の授業は、生徒との教員の双方向のコミュニケーションの上に成り立つ授業に特色がある。 ・他方、少人数の授業であるがゆえに、病欠の生徒1人でもでてしまうと、授業が進めにくいという課題もある。	A	A ・和気あいあい、生徒にわかりやすい授業をしており、教師と生徒の関係の良好さが感じられた。さらに生徒が主体的に授業に参加する授業づくりや指導法の研究に努めて欲しい。 ・「生徒との教員のコミュニケーションの上に成り立つ授業」がAL型授業においても原点と感じます。
9 保護者・地域住民等との連携	(1)信頼される学校づくりの推進【市共通項目10】	学校評議委員会による学校評価等により教育活動を点検し、改善を図る。 【管理職】 【学校説明】 ・第2回の学校評議委員会では、多くの助言を頂いた。以前に比べて落ち着いていると高い評価を頂いたが、一方で不登校への対応や、キャリア教育の推進について充実を求める声もあった。また、定時制教育に合ったカリキュラムマネジメントを進める必要性についてもご指摘いただいた。 学校だよりや生徒会新聞、またHP等による積極的な情報発信を行う。 【管理職・生徒課】 【学校説明】 ・学校だより（「市定だより」）を年6回発行した。 ・生徒会だより（「市定新聞」）を年3回発行した。 ・「学校案内」を作成し、延べ100部以上配布できた。 ・HPの更新を「WEB版市定だより」を中心に災害情報など積極的な配信を行った。	B A	B ・評議員として、定時制を見せて頂き、よく分かってよかった。 ・授業が少人数なので、教師の教卓は取り除き、生徒と机を並べて、同じ目線で授業を行う方が効果的である。 ・是非、今後も学校評議員の授業公開を実施してもらいたいと思います。 A ・「市定だより」は学校行事や生徒の様子がよくわかり、内容も工夫して編集されている。

<p style="text-align: center;">学校から 経営のまとめ(成果と課題)</p> <p>(1) 基本的な生活習慣 成果としては、生徒の服装・頭髪・言葉遣いが良くなったことが挙げられる。その背景には、教職員の粘り強い指導があったからだと思う。生徒指導4件(6人)という数字は、生徒数に比べて多いように思われるが、比較的軽微な指導事案を積極的に指導した結果である。 課題としては、退学者を2人出したことが挙げられる。彼らが抱えている問題、特に家庭環境に於ける問題を、学校として解消することができなかった。今後の対策としては、特別支援教育の充実、スクールソーシャルワーカー等との連携などを充実させる必要がある。 次年度も、少人数教育の利点を活かし、これまで以上に個々の生徒に寄り添う指導を行っていききたい。</p> <p>(2) 自己肯定感・有用感 (3) 自主性・主体性 生徒の自己肯定感・有用感・自主性・主体性の高まりを、成果として証明することは難しいが、2学期後半頃から、生徒の表情が全体に明るくなったように思える。幼稚だった1年生の言葉遣いや態度もしっかりしてきた。おそらくは、生徒会を中心とした生徒主体の行事運営等を通じて、生徒全体の自己肯定感・自己有用感、自主性・主体性が高まったのではないかと推察する。また、教職員の日頃のきめ細かい声掛けが、生徒の心の安定と成長に寄与していると感じる。更に、12月に実施した、NPO法人キーパーソン21のアクティビティも、成果があったのではないかと。 課題としては、生徒数の減少により、生徒会活動や学校行事の運営に支障が出てきていることだ。本校にとって、学校行事は、生徒の自己肯定感や自主性を育む貴重な場である。しかし、生徒数の減少により、生徒会役員の選出もままならず、学校行事自体の実施も難しくなってきた。例えば、百人一首大会では対戦チームが足りず、急遽、OB・OGの参加を依頼したこともあった。根本的な解決は難しいが、生徒数が減少しても、生徒の自己肯定感や主体性を育む姿勢は大切にしたい。</p>	<p style="text-align: center;">学校関係者評価委員会まとめ</p> <p>先生方の生徒に対する積極的対応を見るに、学校の方向性がしっかりと意思統一できていると感じている。生徒数が少なすぎるのは学校として様々な面で大変だと思う。定時制課程が閉じられるのは淋しいが、一つの役割を終えたということだろう。「学校評価書」の変更においても、生徒への目線の重視を感じる。今後、生徒の教育環境が厳しくなることも考えられるが、素晴らしい教育実践を続けていただけたらと思う。</p>
---	--